

講座番号・講座名

No.2 化学物質管理及び化学物質のリスク評価概論

講師

NITE 化学物質管理センター 計画課戦略企画室

Q	A
<p>NOAELを不確実係数の積で割ることで有害性評価値を出すとのことだが、かなり安全サイドに振っているのではないかと疑問に思った。係数が1未満になることはあるのか?NOAEL<有害性評価値の関係になることはあるのか?</p>	<p>不確実係数の積で割るのは、活用目的に対し、個々の試験結果における不確実な要素(種差、個体差、試験期間など)を考慮した上で安全に活用できるようにするためです。不確実な要素が持つ懸念を減らし、試験結果を安全に活用するためには、それぞれの不確実性係数を考慮して、安全側で考える必要があります。また、各数値は目的によって何をどこまで守るべきかで選択されます。個々の不確実係数は1以上であり、1未満になることはありません。したがって、不確実係数の積も1以上となりますので、NOAELよりも有害性評価値が大きくなる(NOAEL<有害性評価値)ことはありません。</p> <p>本講義では動物試験結果を用いたわかりやすいリスク評価手法の一例を紹介しており、この方法では、動物試験結果をヒトに外挿するための動物とヒトの種差を考慮するための不確実係数が用いられています。一方で、例えばヒトの健康影響に対する情報が十分に存在する場合には、その情報を使用することを前提とした評価方法が用いられることとなりますが、その場合においても不確実係数を1未満と設定することはありません。評価の目的に応じて、得られた情報とその不確実性を考慮した手法を用いた評価が行われております。</p>